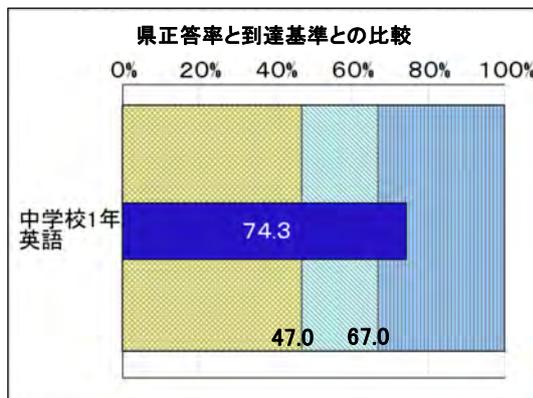


1 中学校英語

(1) 各学年の調査結果

① 中学1年生

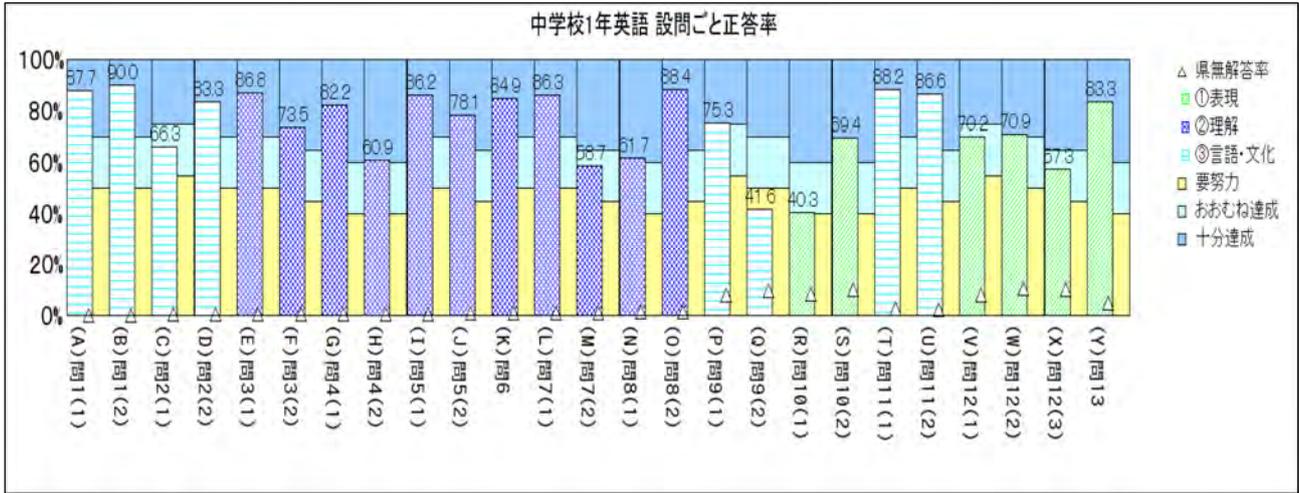
○ 教科全体正答率



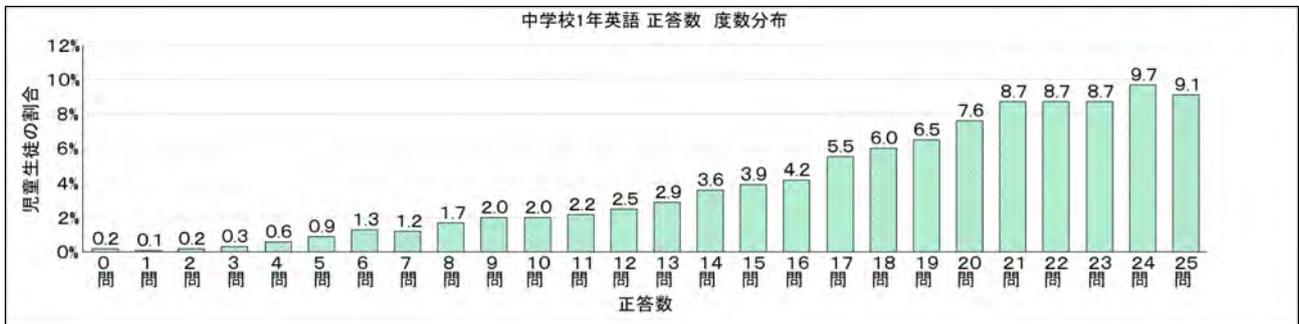
○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等			評価の観点			問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解	選択式	短答式	記述式					
1 (1)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○					○	○			70	50	87.7	0.2	◎
1 (2)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○					○	○			70	50	90.0	0.2	◎
2 (1)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○					○	○			75	55	66.3	0.3	
2 (2)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○					○	○			70	50	83.3	0.4	◎
3 (1)	対話を聞いて、概要を理解する	○					○	○			70	50	86.8	0.3	◎
3 (2)	対話を聞いて、概要を理解する	○					○	○			65	45	73.5	0.4	◎
4 (1)	聞いて得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する	○					○	○		○	60	40	82.2	0.3	◎
4 (2)	聞いて得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する	○					○	○		○	60	40	60.9	0.3	◎
5 (1)	対話文を読んで、相手の意向を理解し、適切に応じる		○				○	○	○		70	50	86.2	0.6	◎
5 (2)	対話文を読んで、相手の意向を理解し、適切に応じる		○				○	○	○		65	45	78.1	0.7	◎
6	説明文を読んで、概要を理解する		○				○	○	○		70	50	84.9	1.0	◎
7 (1)	対話文を読んで、大切な部分を正確に理解する		○				○	○	○		70	50	86.3	0.7	◎
7 (2)	対話文を読んで、大切な部分を正確に理解する		○				○	○	○		65	45	58.7	0.8	
8 (1)	対話文を読んで得た情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する		○				○	○	○		60	40	61.7	1.4	◎
8 (2)	英文を読んで、大切な部分を正確に理解する		○				○	○	○		65	45	88.4	1.4	◎
9 (1)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く			○			○		○		75	55	75.3	7.9	◎
9 (2)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く			○			○		○		70	50	41.6	9.6	●
10 (1)	対話文を読んで内容を理解し、適切な語を書く		○	○	○	○	○		○		60	40	40.3	8.4	
10 (2)	対話文を読んで内容を理解し、適切な語を書く		○	○	○	○	○		○		60	40	69.4	10.2	◎
11 (1)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く			○			○		○		70	50	88.2	2.4	◎
11 (2)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く			○			○		○		65	45	86.6	2.3	◎
12 (1)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○	○		○		○		75	55	70.2	7.8	
12 (2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○	○		○		○		70	50	70.9	10.5	◎
12 (3)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○	○		○		○	○	65	45	57.3	9.9	
13	テーマについて、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある英語で文章を書く			○	○				○	○	60	40	83.3	4.8	◎

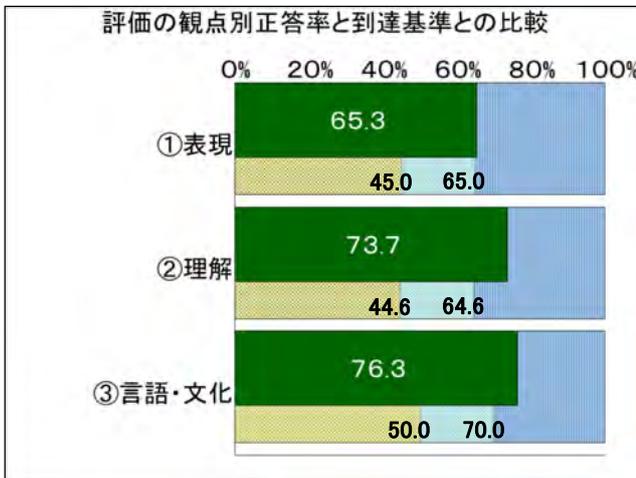
○ 設問ごと正答率



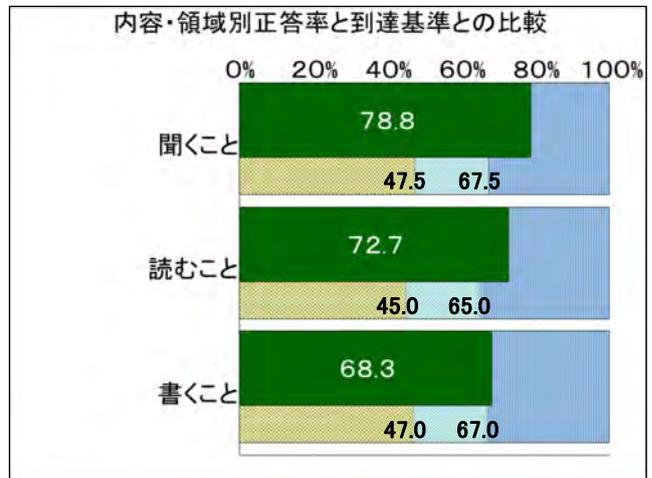
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

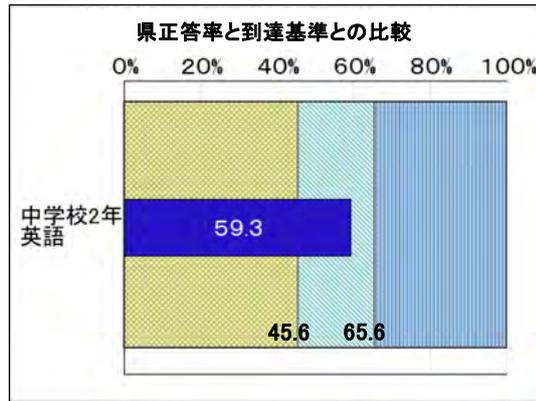


○ 内容・領域別正答率



② 中学2年生

○ 教科全体正答率



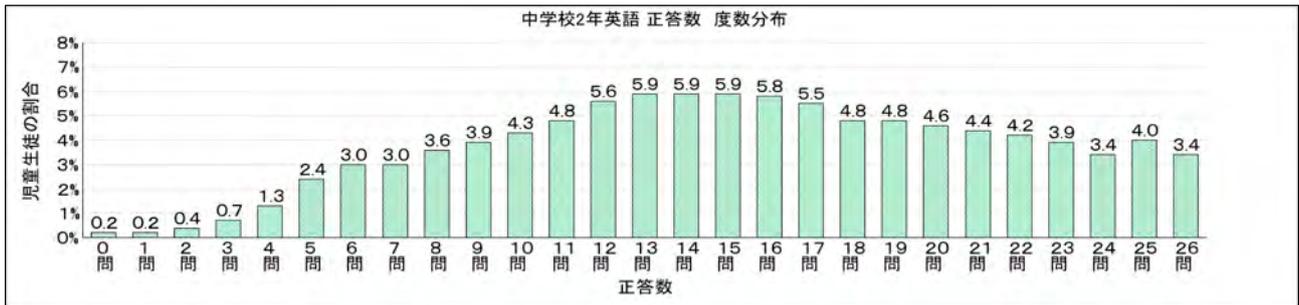
○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率等(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等			評価の観点			問題形式			活用に関する問題	十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと	表現の能力	理解の能力	知識・理解	言語や文化についての	選択式	短答式						
1 (1)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○					○	○				75	55	87.2	0.2	◎
1 (2)	聞いて得た情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する	○				○		○				70	50	91.1	0.2	◎
1 (3)	聞いて得た情報とグラフから読み取った情報を関連付けながら理解する	○				○		○				60	40	94.2	0.2	◎
2 (1)	対話を聞いて、適切に応じる	○				○		○				65	45	81.0	0.4	◎
2 (2)	対話を聞いて、適切に応じる	○				○		○				65	45	70.6	0.4	◎
3 (1)	対話を聞いて、必要な情報を理解する	○				○		○				65	45	80.5	0.3	◎
3 (2)	対話を聞いて、複数の必要な情報を関連付けながら理解する	○				○		○		○	60	40	62.3	0.3	◎	
4	まとまりのある英語を聞いて、話し手が伝えたいことや聞き手にとって必要な情報を理解する	○				○		○				60	40	56.2	0.4	
5	対話文を読んで、大切な部分を正確に理解する		○			○		○				65	45	83.3	0.5	◎
6 (1)	説明文を読んで得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する		○			○		○		○	60	40	50.7	1.6		
6 (2)	説明文や対話文を読んで、大切な部分を理解する		○			○		○				60	40	50.4	1.3	
7 (1)	対話文を読んで、大切な部分を理解する		○			○		○				65	45	70.3	0.8	◎
7 (2)	対話文を読んで、流れを理解する		○			○		○				65	45	26.7	0.8	●
7 (3)	対話文を読んで、流れを理解する		○			○		○				60	40	44.7	1.2	
8 (1)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く			○			○			○		75	55	59.1	17.9	
8 (2)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く			○			○			○		70	50	32.8	19.8	●
9 (1)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く			○			○			○		70	50	33.5	2.6	●
9 (2)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く			○			○			○		70	50	38.2	2.4	●
9 (3)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く			○			○			○		70	50	55.5	2.5	
10 (1)	文と文の関係に注意して文章を書く			○	○				○			65	45	44.3	1.1	●
10 (2)	文と文の関係に注意して文章を書く			○	○				○			65	45	62.9	1.1	
11 (1)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○	○		○			○		75	55	73.1	10.1	
11 (2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○	○		○			○		65	45	52.7	14.7	
11 (3)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○	○		○			○		65	45	36.6	17.4	●
12	電子メールを読んで、自分が伝えたいことを書く			○	○					○	○	60	40	44.8	18.6	
13	テーマについて、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある英語で文章を書く			○	○					○	○	60	40	62.0	13.4	◎

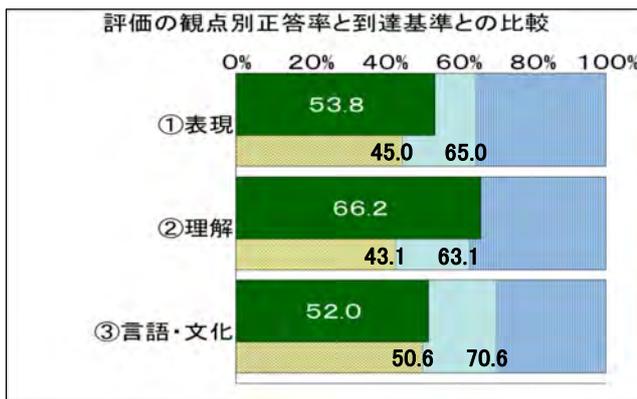
○ 設問ごと正答率



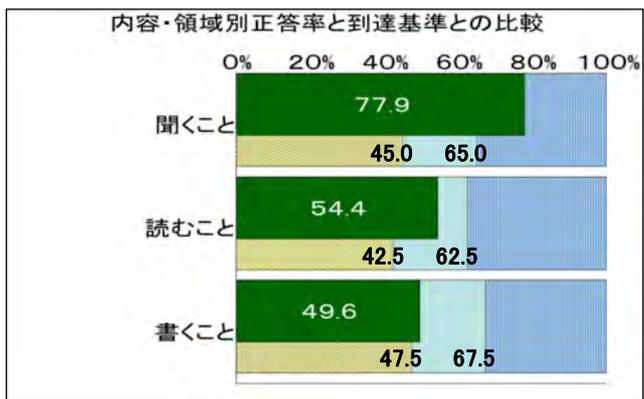
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

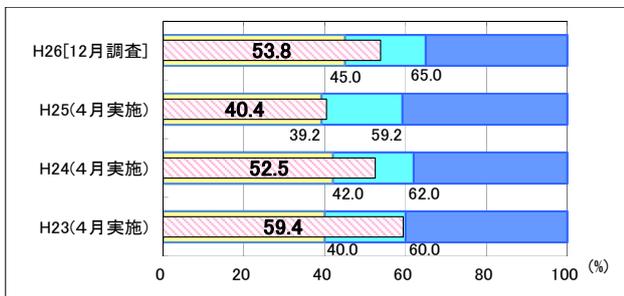


○ 内容・領域別正答率

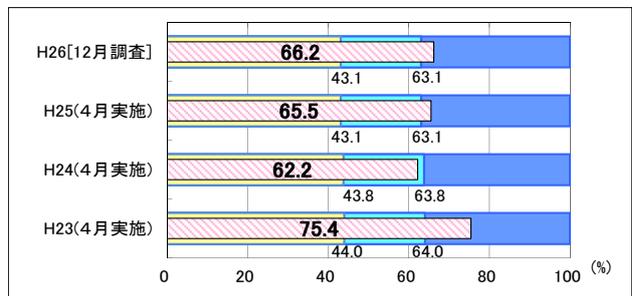


○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

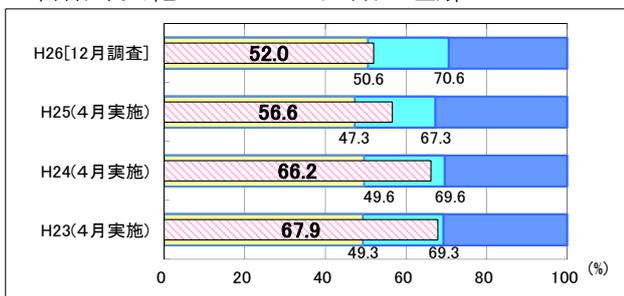
外国語表現の能力



外国語理解の能力



言語や文化についての知識・理解



(2) 調査結果の分析(成果と課題)

① 中学校全体

- 中学1年生において、全ての評価の観点、「十分達成」の到達基準を上回っていた。中学2年生において、「理解の能力」が、「十分達成」の到達基準を上回っており、「表現の能力」と「言語や文化についての知識・理解」が、「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。どちらの学年も、内容・領域「聞くこと」においては「十分達成」の到達基準を上回っている状況にあり、正しく聞き取る力の定着が見られた。
- 平成25年度調査において課題として挙げられていた「疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く」ことにおいては、平成26年度[12月調査]でも「おおむね達成」の期待正答率を下回っている設問があり、課題が見られた。
- 教科正答度数分布において、中学1年生と中学2年生との分布の違いが顕著であった。平成26年度[12月調査]の出題範囲では、中学1年生はおおむね学習内容を理解していると考えられるが、中学1年生の終盤までにつまずく生徒が出てくることを踏まえておく必要がある。

② 中学1年生

- 全ての評価の観点、全ての内容・領域の正答率が、「十分達成」の到達基準を上回っていた。
- 内容・領域「書くこと」において、一般動詞を含む疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書くことに課題が見られた。
 - ・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問9 (1)	疑問文の構造を理解し、 語と語のつながりに注意 して書く。 (記述式)	be動詞を含む現在形の 平叙文を、対話の流れに 応じて疑問文にする。	75.3	7.9	75.0	55.0
問9 (2)		一般動詞を含む3人称 単数現在形の平叙文を、 対話の流れに応じて疑 問文にする。	41.6	9.6	70.0	50.0

- ・ 解答状況

書くときの条件は、(1)は教室での会話という場面設定で、「あなたはケンですか。」と尋ねる文にすること、(2)は写真を見ながらの会話という場面設定で、「彼は野球をしますか」と尋ねる文にすることである。(1)はbe動詞を含む疑問文であり、(2)は一般動詞を含む3人称単数現在形の疑問文である。どちらも、対話の流れの中で平叙文を疑問文に変えることに気付くことができるかどうか、さらに、疑問文の構造が理解できているかどうかを見る設問である。2つを比較すると、(2)の定着に課題があると言える。言語習得に関する研究においては、3人称単数現在形の一般動詞の語形変化は習得順序が遅いとされており、現段階では難しかったのではないかと推察される。
- ・ 改善・充実に向けて

学習した文法事項は、使用場面に配慮をした上で活用させることが大切である。実際のコミュニケーションの中で文法操作ができるように授業を仕組みたい。また、習得順序が遅い文法事項については、3年間の中で繰り返し指導を行ったり、関連のある文法事項はまとまりをもって整理したりするなど、長期的なスパンで定着を図る視点ももっておきたい。具体的には次のような指導が効果的である。

㊦ 文法事項は一方的な説明を行うのではなく、生徒とのやり取りの中で言語への気付きを促すようにする。その際、関連のある文法事項を合わせて整理をする。

- ① 学習した文法事項を活用する言語活動を仕組み、活動の中で生じた誤りについては、全体や個への適切なフィードバックを行う。
- ② 活動例として、スピーチ活動とQ&A活動を組み合わせたものが挙げられる。まず、発表者が他己紹介を”I’m going to tell you about ○○. He is 129.3 cm tall. He sleeps in the closet. He always helps his friend. Can you guess?”というように名を明かさずにクイズ形式で行う。次に、聞き手が、情報を聞き出すために”What color does he like? Does he like *dorayaki*?”などの質問を行っていく。最後に、発表者が質問に応答し、聞き手が”Is he ○○?”と質問して当てる。グループ対抗などで制限時間を設定して行うと活動が活性化される。このように文法事項は、それを使う必然性のある場面を与えることが大切である。意味内容のやり取りの中で、形式面についての生徒同士のフィードバックが出現し始め、本人の気付きも起こり始める。帯学習として短時間で繰り返し継続的に行う方が望ましい。#

③ 中学2年生

- 評価の観点「理解の能力」、内容・領域「聞くこと」が、「十分達成」の到達基準を上回っていた。評価の観点「表現の能力」と「言語・文化についての知識・理解」、内容・領域「読むこと」と「書くこと」が、「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。
- 内容・領域「読むこと」において、対話文を読んで、流れを理解することに課題が見られた。
- ・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問7 (2)	対話文を読んで、流れを理解する。 (選択式)	対話の流れを理解し、Tomの出身国を選択肢から選ぶ。	26.7	0.8	65.0	45.0
問7 (3)		対話の流れを理解し、Kenの適切な応答を選択肢から選ぶ。	44.7	1.2	60.0	40.0

・ 解答状況

サッカーをテーマにした内容の対話文である。対話の流れを理解し、(2)はトムの出身国を選択肢から選び、(3)はケンの適切な応答を選択肢から選ぶ設問になっている。(2)は、対話の最初にワールドカップの開催地であったブラジルのことが出てくることと、直前にアメリカという語が出てくることから、混乱してしまったのではないかと推察される。(3)は、直前の文の主語である **Some Japanese soccer players** を受けて、選択肢の中の **They** を含む文を選択したのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

読みの指導においては、発問構成が重要であり、読みの段階に応じて工夫をしていくことが大切である。あわせて、情報を可視化するためのマッピングなどを用いれば、英文の中に登場する人物や物事の間関係を明らかにしやすくなる。一文一文の情報を積み重ねても、それだけでは英文全体の場面や状況を把握することにはならない。書き手の意図を読み取らせるためには、情報を関連付けて推論させる場면을授業の中で仕組んでいく必要がある。具体的には次のような指導が効果的である。

※参考文献 卯城 祐司著 『英語で英語を読む授業』 2011年 研究社

- ⑦ 本文内容の理解ができているかどうかを確認するために、情報についてそのまま問うのではなく、少し形を変えた活動を行う。例えば **Picture Describing**、**Reproduction**、**Summary** などの活動、情報を表にまとめる活動、対話文を説明文にするといった文章の

スタイルを変える活動などを行うことで、本文内容を様々な角度から見ることになり、深い読みが促される。

- ① 本文を類型化(対話文、物語文、説明文)し、それに応じた発問構成を考える。
- ② 本文内容の読みの段階に応じた発問を組み立てる。まず、本文に明示された内容を読み取らせる事実発問、次に、本文に明示された情報を基に直接明示されていない内容を推測させる推論発問、最後に、本文に書かれた内容に対する読み手としての考えを答えさせる評価発問というように、段階に応じた発問を行うことで、最終的に生徒の考えを引き出す。

- 内容・領域「書くこと」において、一般動詞を含む過去形の疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書くことに課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問 8 (1)	疑問文の構造を理解し、 語と語のつながりに注意 して書く。 (記述式)	be 動詞を含む過去形の 平叙文を、対話の流れに 応じて疑問文にする。	59.1	17.9	75.0	55.0
問 8 (2)		一般動詞を含む過去形 の平叙文を、対話の流れ に応じて疑問文にする。	32.8	19.8	70.0	50.0

・ 解答状況

書くときの条件は、(1)は東京に行った先生に天気はどうであったかを聞く場面で、「晴れていましたか。」と尋ねる文にすること、(2)は友達同士の対話の場面で「昨日ケンを訪ねましたか。」と尋ねる文にすることである。(1)は be 動詞を含む過去形の疑問文であり、(2)は一般動詞を含む過去形の疑問文である。どちらも、対話の流れの中で平叙文を疑問文に変えることに気付くことができるかどうか、さらに、疑問文の構造が理解できているかどうかを見る設問である。2つを比較すると、(2)の定着に課題があると言える。言語習得に関する研究においては、規則動詞の過去形の語形変化も習得順序が遅いとされており、十分に定着できていないのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

中学1年生同様、学習した文法事項は、使用場面に配慮をした上で活用させることが大切である。実際のコミュニケーションの中で文法操作ができるように授業を仕組みたい。また、習得順序が遅い文法事項については、3年間の中で繰り返し指導を行ったり、関連のある文法事項はまとまりをもって整理したりするなど、長期的なスパンで定着を図る視点ももっておきたい。具体的には次のような指導が効果的である。

- ① 文法事項は一方的な説明を行うのではなく、生徒とのやり取りの中で言語への気付きを促すようにする。その際、関連のある文法事項を合わせて整理をする。
- ② 学習した文法事項を活用する言語活動を仕組み、活動の中で生じた誤りについては、全体や個への適切なフィードバックを行う。
- ③ 活動例として、ここでもスピーチ活動とQ&A活動を組み合わせたものが挙げられる。夏休み明けに実践できる。手順としては、まず、発表者が夏休みの思い出についてスピーチを行う。次に、聞き手が、スピーチ内容について質問をする。発表者は質問に応答する。ある程度質問が出たら、最後に聞き手が、スピーチについてコメントをする。グループ対抗などで制限時間を設定して行うと活動が活性化する。#

(3) 改善のポイント

① 文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導する

- ・ 新出の文法事項を指導する際には、その意味や機能を十分に理解させた上で、新出の内容と既習の内容との関連を図り、言語活動の中で自分の考えや気持ち、事実などを伝え合うことに生かす。
- ・ 文法事項の取扱いについては、単元の中での位置付けを明確にする。単元の最後にはパフォーマンス課題を設定し、学習したことを活用する場面を与える。学習した文法事項は、理解の段階や機械的な **Pattern Practice** にとどめることなく、表現の段階まで高める指導を行う。

② 英語の特質を理解させるために、関連のある文法事項はまとまりをもって整理するなど、効果的な指導ができるよう工夫する

- ・ 文法事項を指導する際、一つ一つの事項の指導において英語の特質を理解させるだけでなく、英語と日本語の違いに焦点を当て、関連のある文法事項についてはより大きなカテゴリーとして整理して理解させる。例えば、現在形や過去形の指導の後、時制として整理したり、不定詞や関係代名詞などを修飾という側面から整理したりするなど体系的に理解させる。
- ・ 文法事項は、1回の説明で終わることなく、関連した事項を3年間のスパンの中で繰り返し整理して提示する。その際、習得順序の遅い事項については、長期的な視点で定着を図る。教科正答度数分布における中学1年生と中学2年生との分布の違いについて考察してみると、英語を苦手だと感じる時期として最も高い割合を示している中学1年生の後半¹⁾は、3人称単数現在形の動詞の語形変化、現在進行形や過去形などの時制に関する文法事項を学習する時期となっている。加えて疑問詞のほとんどをこの時期に学習するという配列になっている。そのため、英語科としては、この時期の学習内容は長期的な見通しをもって定着を図りたい。

※参考文献 Benesse 『第1回中学校英語に関する基本調査報告書』 (2009)

- ・ 田地野は「現在の外国語教育の研究では、間違いは学習が進むうえでむしろ必要な条件だと考えられている」¹⁾とするものの、間違いには質の違いがあり、コミュニケーションを取ることが言語を使う目的でもあるが、意味の通じる間違いと、意味の通じない間違いを区別することが大切だとしている。そこを踏まえた上で、間違いの質に応じたフィードバックを行っていく必要がある。

※引用文献 田地野 彰著 『〈意味順〉英作文のすすめ』 2011年 p.26

③ 読みの段階に応じた発問構成を工夫する

- ・ 読みの指導に当たっては、読みの指導過程を、読む前、読んでいる間、読んだ後の3段階の枠組みで捉え、事前に内容を尋ねる質問をしたり、発問の仕方に工夫をしたり、手掛かりとなる語句や表現をヒントとして与えたりなどする。
- ・ 発問を行う際には、情報や情報同士の関連性を可視化するために、マッピングなどを合わせて活用する。マッピングは、理解活動と表現活動をつなぐツールとして使うことができる。
- ・ 内容・領域「読むこと」をコミュニケーション能力を身に付けるための活動として位置付け、「読むこと」を通して得た知識等について、読んだ後の段階においては、自らの体験や考えなどに照らして「話すこと」や「書くこと」と結び付ける。
- ・ 内容・領域「読むこと」の活動においては、目的をもって読んだり、読んだ後に感想等を表現し合ったりする活動を計画的・系統的に行わせる。

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターでは、「4技能『聞く・話す・読む・書く』を関連付けた中学校英語科学習指導の工夫」という研究テーマで、「書くこと」の指導の充実を目指した授業実践を提案しています。また、ICT利活用による授業実践も紹介していますので、ご活用ください。